

水田たより 11月号

令和3年11月1日

JA みえきた

桑名地域農業改良普及センター

令和4年産小麦の収量・品質向上にむけて

■小麦のランク区分について

小麦はそれぞれの評価項目を満たすかによってランク付けがされます。

生産物がAランクとなるには、3つ以上の評価項目で基準値を満たし、かつ許容値をすべて満たさなければなりません。

評価項目	基準値	許容値
①タンパク含量 子実重（収量）に対するタンパク質の割合	9.7%～11.3%	さとのそら 8.5%～12.5% あやひかり 8.0%～13.0%
②灰分 子実に含まれる無機成分（ミネラル分）の割合	1.60%以下	1.65%以下
③容積重 子実ひと粒の充実が良くなると向上	840g/L以上	—
④フォーリングナンバー 子実中のアミロース（でんぷん）含量の指標	300以上	200以上

なお、JA みえきた管内のR3年産小麦については、両品種とも1等Aランクでしたが、あやひかりではタンパク含量が、さとのそらでは容積重が基準値を満たしていませんでした。

タンパク含量、容積重を向上させるためには適期適量の追肥が大切です。

■高品質の維持にむけて

昨年度はあやひかりについてはCランクでしたが、本年度ではAランクに向上させることができました。次作以降も高品質を維持できるよう、基本の栽培技術を留めなおしましょう。

①小麦播種前や播種時に気を付けること

- ・圃場の排水対策や、特に連作圃場では土づくりに努めましょう
⇒過去の水田たより（「桑名普及」で検索）をご参考ください
- ・適切な播種量（8～9kg/10a）を心がけましょう
⇒過剰な分けつを抑えることで、有効茎歩合を増加させます

②12月～3月の栽培技術

- ・早播きや暖冬で生育が進みすぎた（年内に4葉期を超える生育）場合、
過剰な分けつを抑制するため麦踏みをおこないましょう
⇒麦踏みによるいたみを防ぐため、土壌がよく乾いたときに実施しましょう
- ・適期適量のつなぎ肥・追肥をおこないましょう
⇒特に止葉抽出期の追肥は、タンパク含量、容積重を向上させます

具体的な追肥施用については、桑名・木曾岬地域およびいなべ・東員地域とも12月～1月に研修会を予定しており、そこで詳しくお話する予定です。

開催案内等は後日、各JA営農センターよりお配りします。

大豆の品質向上

今年、①播種時期が大きく遅れなかったこと、②生育期～開花期に干害がなかったこと、③台風の直撃がなかったこと等により、大豆の生育は概ね良好です。仕上げの作業として、汚損粒対策の徹底によって品質向上を図り、大豆での収入確保を目指しましょう。

■等級低下による収入減少

農産物検査における大豆の等級低下には、①病害虫による「被害粒」と②雑草や泥土等による「汚損粒」の発生割合が大きく影響します。1等と3等では10aあたりで3,820円もの収入差が発生してしまいます。

雑草による汚損粒で、大きな収入減になることも…

農産物検査規格	等級	1等	2等	3等	特定加工
	被害粒等の割合	15%以下	16～20%	21～30%	31～35%
収入差(10aあたり)		0	-1,980円	-3,820円	-5,660円

※上記は、種類:普通大豆、粒別:大粒、単収:120kgで試算。被害粒には、汚損粒や未熟粒、異種穀物等を含む。
 ※収入差は、「元年産JAみえきた精算価格」と「経営所得安定対策数量払い交付金」により算出

これからできる汚損粒対策は、主に「雑草防除」です。

■汚損粒とその原因となる雑草



■収穫前の汚損粒対策

①手取り除草

ホオズキ類やケイトウ類は、大豆が成熟期になっても、子実又は茎に水分を含んでいるため、手作業による除草を行う必要があります。青立ち株の除去も同時に実施しましょう。

②収穫前の除草剤散布

手作業の除草が困難な場合には、除草剤の散布によって雑草を枯殺させることも可能です。散布時期は、落葉終期（葉の大部分が落葉した日）であり、今年の7月中旬播種の「フクユタカ」では11月初旬頃からと見込まれます。

農薬名	使用時期	使用方法
ラウンドアップ マックスロード	落葉終期～収穫14日前まで(雑草生育期)	雑草茎葉散布

- ・雑草が枯れるまで3週間程度は必要であるため、時期になったら速やかに散布しましょう。
- ・農薬の使用にあたっては、ラベルに記載された内容を十分に確認してください。



③適期収穫

早刈りを行うと、茎葉や莢の水分により汚損粒が発生したり、未熟粒や破碎粒も発生するため、必ず適期（茎水分50%以下、子実水分18%以下）に収穫しましょう。